

# ローカルな秩序の作り方

## メコンデルタの人々の生き残る術から考える近代

神戸大学大学院国際文化学研究所

下條 尚志

### 概要：

ベトナム戦争と戦後の社会主義政策の下、国家による集住化、暴力、兵役、農業集団化に対し、メコンデルタ多民族社会の人々は、徴兵忌避や闇経済、カンボジアへの非合法越境ルートなどの「国家の介入しにくい空間」を生成していました。民族的混雑性や移動性の高さ、国境の外側と結びついた宗教や経済など、国家にとって捉えどころがなく統治しにくい要素が混在する地域を国家の「余白」とし、そこが、人間の生存にとっての危機的な状況を改善したり調整したりする「余地」が人々の手に残された場でもあったことについてお話します。

### 講演の主な内容：

1. なぜこの研究をはじめたのか？
2. 研究の概要：要旨、目次、目的、キーワード(国家の「余白」、ローカルな秩序、国家の介入しにくい空間)
3. 対象地域の説明：メコンデルタ、ソクチャン省、捕捉しにくさ（混雑性、カンボジアとのかかわり）
4. ベトナム戦争下の生き残り(1954~1975年)：村落の日常と戦争、徴兵逃れの増加、不可侵の秩序空間
5. 社会主義改造下での生き残り(1975~1988年)：国家にとって「読めない」人々の行動、米をめぐる闇経済
6. 生き残り策としての越境移動(1975年~現在)：裏ルート、難民と出稼ぎ労働者、21世紀の越境移動不自由化
7. 結論：論点整理、「国家の介入しにくい空間」の原理、ローカルな秩序の強さ、「余白」をめぐる再帰的な歴史

質疑応答